

願書番號大正十五年第二二一五四號
出願 昭和十五年十月十一日
公告 昭和三年一月二十六日

名古屋市中區御器所町字上赤島三十三番地
考案者 西川 淳
名古屋市中區熱田東町字竹ヶ鼻三十六番地ノ三
出願人 日本碍子株式會社
東京市麴町區八重洲町一丁目一番地昭和ビルヂング內
代理人 辨理士 杉村 外信 一名近

碍子用「フック」

圖面ノ略解 第一圖ハ本案「フック」ノ正面圖第二圖ハ其平面圖ニシテ何レモ一部ヲ截切セリ

實用新案ノ性質、作用及效果ノ要領 本案ハ普通ニ送電線路ノ懸垂若クハ引留碍子ト關聯シテ使用セラルル「フック」ノ脱落ヲ防止スヘキ裝置ニ關スルモノナリ

圖面ニ於テ「 Γ 」ハ「フック」本體即チ鉤體ニハ其取付孔ニハ鉤端ナリ本案ニ於テハ「 Γ 」狀ヲナス止腕ヲ螺子ニ依リテ「フック」ノ幹部ニ裝着シ止腕至ト「フック」ノ幹部トノ間ニハ撥條ヲ裝置ス圖示セル場合ニ於テハ撥條ニハ螺子ノ周圍ニ於テ止腕至ノ穀孔之内ニ設置セラレ單ニ壓縮力ニノミ對スルモノトス但シ張力撥條ヲ使用シ同様ノ效果ヲ奏セシノ得ル事勿論ニシテ何レニスルモ第二圖示ノ位置ニ於テ止腕至ヲ矢 Δ ノ方向ニ押シ付クル機作用ス但シ撥條ニハ必スシモ前記ノ如ク穀内ニノミ埋設スルヲ要セス止腕ト「フック」ノ幹部トノ間ニ裝置シ相對的ニ矢 Δ ノ方向ニ力ヲ加フル機爲セハ可ナリ「 Γ 」ノ幹部ニ設ケタル突起ニシテ止腕至ヲ終極位置ニ止ムルニ供ス又「フック」ノ幹部ニハ凹溝又ハ凹所ヲ設ケ止腕至ノ是レニ對應スル側面上ニハ同様ノ凸條又ハ突起ヲ設ケ兩者ヲ互ニ合致セシムル機止腕ヲ「フック」ノ幹部ニ取り付クル時ハ第一圖示ノ位置ヲ取ル機構成ス從テ斯ル狀態ニ於テハ止腕至ハ「フック」ノ幹部ニ對シ極動スル能ハス確固ニ其ノ位置ヲ支持スヘシ

然レ共止腕至ヲ螺子ノ軸方向ニ矢 Δ ト反對方向ニ動カス時ハ撥條ニハ壓縮セラレ從テ突起ト凹溝トノ懸合ヲ脱スルヲ以テ止腕至ヲ第一圖矢 Δ ノ方向ニ動カシ得ヘシ此ノ目的ニ對シ止腕至ト鉤體トノ間ニハ少許ノ間隙ヲ存セシムルモノトス

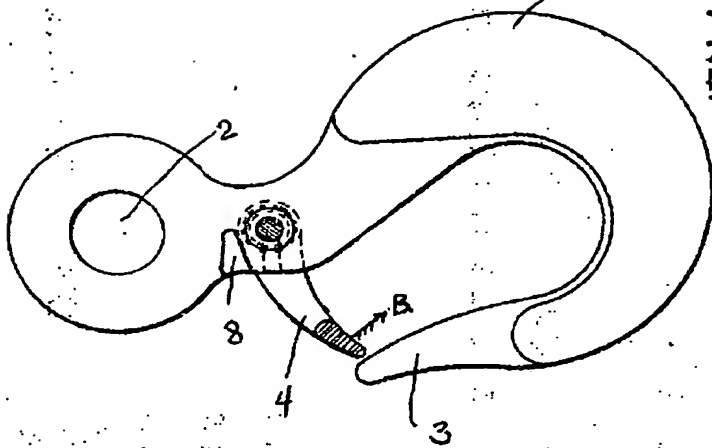
斯クシテ鉤端ヲ「ホル」孔ニ貫通セシムル等任意他物ト懸合セシメ得ヘク而シテ一旦懸合セル後止腕ヲ再ヒ第一圖ニ示セル位置ニ動かス時ハ撥條^{（一）}ハ互ニ嵌合セシムル機止腕ヲ側方ニ動かシ又突起^{（二）}ハ更ニ確實ニ之ヲ終極位置ニ支持スル爲メ必要ニ應シテ設ケラルモノトス

要スルニ本^{（三）}依ル時止腕ヲ僅ニ側方ニ押シテ之ヲ遊離セシムルモ「フック」ノ内方ヨリ之ヲ動かカス能ハサル機簡單且有力ニ脱落防止ノ作用ヲナシメタルモノトス

登録請求ノ範圍 圖面ニ示セル如クU狀ヲナス止腕ト之ヲ「フック」幹部ニ取付クル螺子ト前記止腕ヲ該幹部ト相對的ニ前記螺子軸ノ方向ニ抑止セシムル機止腕及幹部間ニ介装サレタル撥條ト前記止腕及鉤體ノ接觸面間ニ夫々設ケラレタル凸凹懸合部トヨリ成ル碍子用「フック」ノ構造

實用新案出願公告第四一六號

圖一第



圖二第

